



# 翔

2006 August  
No.181  
百万石蝶談会

## 金沢市犀川上流でヒメキマダラセセリを観察

大脇 淳

これまで金沢市では記録のなかったヒメキマダラセセリを、金沢市犀川上流で観察したので報告する。7月8日の個体は、5～6回目撃したので、同一個体で無ければ、複数個体観察したことになる。

2006年6月29日	金沢市日尾	1♀目撃	大脇 淳
2006年7月8日	金沢市日尾	1♂採集 1♂目撃	大脇 淳



林縁の開けた場所に静止する♀  
2006年6月29日撮影



木陰にあるオカトラノオで吸蜜する♂  
2006年7月8日撮影

本種の記録は、これまで白山麓の旧白峰村、尾口村、吉野谷村の標高600～1300m周辺に集中しており、それ以外では小松市大日山麓の標高600m以上の場所から1981年に2例記録されただけである(中山, 1984)。今回記録された場所は、過去に記録のある場所から、かなり離れており、標高も300m程度とこれまでで一番低い。

末筆ながら、これまでの本種の記録を提供していただき、本稿の執筆を助めてくださった松井正人氏に深く感謝する。

### 《参考文献》

中山佐一郎(1984)小松市とその周辺の蝶について(第二報). 小松市立博物館研究紀要(21):26-30.

《おおわき あつし 〒920-0942 金沢市小立野1-23-20》

## 能登半島産から特異なクロアゲハが羽化

松井 正人

輪島市で採集され飼育されたクロアゲハの中からは、無尾♀が羽化し(日吉、2002)、同時に羽化した有尾個体は、後翅表裏面の赤斑の発達が強く、尾状突起の形は、ずんぐりしたものと小さなものまでと変化に富んでいた(日吉、2003a)。その翌年、輪島市で更に無尾♂が採集された(日吉、2003b)。このようなことから、輪島市産クロアゲハの飼育の機会をうかがっていた。

2004年8月22日に、輪島市に近い羽咋郡富来町(現羽咋郡志賀町)鹿頭で、ようやく母蝶を採集し、ミカンを使って採卵し多数卵を得た。これらは、同年10月に羽化し、この中の1♂1♀を使って、再び多数卵を得た。ところが、孵化した幼虫の食草への食いつきが悪く、ほとんどは初齢で死亡した。食草は、色々と試したが、カラスザンショウの若葉が一番良く、これを使って、どうにか11頭が越冬蛹になった。この羽化は、翌年4月下旬から始まり、5月上旬には1頭を残して終了し、最後の1頭は、7月10日に羽化した。

越冬蛹から羽化したものから、尾状突起の短い♂と、裏面の斑紋が発達した♂を紹介する。

## 《 参考文献 》

日吉芳朗(2002)石川県輪島市でクロアゲハの無尾個体が羽化. 月刊むし(382):4.

日吉芳朗(2003a)輪島市でクロアゲハ無尾型を得たいきさつ. 翔(160):1-4

日吉芳朗(2003b)石川県輪島市で再びクロアゲハの無尾個体を得る. 月刊むし(394):3-4.

《まつい まさと 〒920-3121 金沢市大場町東871-15》



裏面の斑紋が発達した♂(裏面)  
2005年7月10日羽化(羽咋郡富来町鹿頭産)



尾状突起が短い♂(裏面)  
2005年4月19日羽化(羽咋郡富来町鹿頭産)

## アサギマダラのヘアーペンシルと匂い付け行動

松井 正人



### アサギマダラの匂い付け行動

腹端から出したヘアーペンシルを、腹部を鉤状に曲げ、性標で挟み込んですり合わせる♂

### 広がったヘアーペンシル

しぼんだヘアーペンシルを出したままのアサギマダラは、たまに観察するが、これほど広がった状態で観察したのは、この個体だけ。これで、香りをばらまかれては、♀はひとたまりもないだろう。



アサギマダラの♂の腹部先端には、ヘアーペンシルと呼ばれる一対の毛の束が隠されている。♀を誘う時には、性標の香り物質を毛にからませ、♀の鼻先でフワフワと揺すれば、効果は絶大だろうと考えていたが、どうやらそれだけではないらしい。

本田(2003)によれば、ヘアーペンシル自身も香り物質を出し、性標の香り物質と接触させることによって、♀を誘う香り物質が作られるらしい。ヘアーペンシルと性標をすり合わせる「アサギマダラの匂い付け行動」は、♀を誘う香り物質を作るのが、真の目的だったのである。

### 《参考文献》

本田計一(2003)マダラチョウ類とアルカロイド。旅をする蝶アサギマダラ：118-124. むし社。

《まつい まさと 〒920-3121 金沢市大場町東871-15》

## 近年減少傾向にあると言われる蝶8種の石川県での現状について

大 脇 淳

現在、石川県では、10種のチョウが絶滅危惧か準絶滅危惧とされている（石川県 2000）。また、オオチャバネセセリ、ミヤマチャバネセセリ、ヘリグロチャバネセセリ、コキマダラセセリ、スジボソヤマキチョウ、オオミスジ、ウラギンスジヒョウモンは石川県では絶滅危惧になっていないが、他府県では近年減少傾向にあり、多くの県で絶滅危惧となっている（井上 2005）。これらの種は、石川県ではまだ健在というより、採集者の興味をひかないため、現状不明になっている可能性がある。

筆者は、上記7種に石川県の危急種であるホシチャバネセセリ（国の絶滅危惧Ⅱ類）を加えた8種について、筆者自身の観察と過去の文献より、2000年以降の記録を報告する。

### ■オオチャバネセセリ（県内では年2化、6月と8月）

2005年8月11日	石川県金沢市俵町	1頭採集	大脇 淳
2005年8月25日	石川県金沢市俵町	1頭採集	大脇 淳
2005年8月27日	石川県金沢市俵町	2頭目撃	大脇 淳
2006年6月27日	石川県金沢市角間町	1頭目撃	井上耕治（写真撮影）

ササ藪が茂る明るい林縁で目撃する。なお、本種は輪島市では1984年を最後に採集記録が無く（日吉・日吉 2002）、減少傾向にある可能性が高い。

### ■ミヤマチャバネセセリ（県内では年2化、5月下旬～6月と7月中旬～8月中旬）

2000年7月24日	石川県金沢市小原町	1頭目撃	大脇 淳
2005年5月26日	石川県金沢市俵町	2頭目撃	大脇 淳
2005年7月15日	石川県金沢市俵町	1頭目撃	大脇 淳
2005年7月28日	石川県金沢市俵町	1頭目撃	大脇 淳

谷津田の休耕田など、湿地に多い。また、本種は2001年には輪島市各地で記録されている（日吉・日吉 2002）。

### ■コキマダラセセリ（年1化、7月～8月）

2002年8月6日	石川県尾口村（現白山市）新岩間温泉	数頭目撃	大脇 淳
2005年7月29日	石川県金沢市医王山（百万石道路沿い）	4頭目撃	大脇 淳

2005年7月下旬の調査では、西尾平から夕霧峠の車道沿いや西尾平から覗までの林道（重山道路）では全く目撃できなかったが、2004年には重山道路周辺で記録されている（石畑 2004b）。2002年には白峰村（現白山市）明谷川から記録がある（松井 2002）。

## ■ヘリグロチャバネセセリ

2002年8月6日 石川県尾口村（現白山市）新岩間温泉 多数目撃 大脇 淳

2002年には、おびただしい数が見られた（大脇 2002）が、筆者自身それ以降8月上旬に白山方面に行っていないこともあり、その後の動向は不明。本種は、現在18都道府県で絶滅危惧に指定されており、全国レベルで衰退傾向が著しい（井上 2005）。

## ■ホシチャバネセセリ

2003年8月22日 石川県小松市上麦口 1頭目撃 大脇 淳

2003年8月22日 石川県小松市原 2頭採集 大脇 淳

2006年6月25日 石川県小松市遊泉寺 1頭目撃 大脇 淳（写真撮影）

2003年の記録は、以前の報告と重複する（大脇 2003）。小松市での調査は十分ではないが、密度はかなり低いように思う。

## ■スジボソヤマキチョウ

2004年6月7日 石川県金沢市戸室別所 1頭目撃 大脇 淳

2004年6月24日 石川県金沢市田島町 1頭目撃 大脇 淳

2005年7月20日 石川県金沢市国見山 1頭目撃 大脇 淳

2005年9月29日 石川県鳥越村（現白山市）左礫 1頭目撃 大脇 淳

2006年6月25日 石川県鳥越村（現白山市）阿手 1頭目撃 大脇 淳

本種は、石川県では健在なようで、各地で目撃される。本種は、2000年以降、能登の輪島市、柳田村（現能登町）、内浦町（現能登町）、及び輪島市と珠洲市の境にある宝立山からも記録されている。（日吉 2004, 日吉・日吉 2004a, b, 石畑 2004a, 松井 2003, 三上 2002）

## ■ウラギンスジヒョウモン

2000年7月3日 石川県富来町（現志賀町）酒見 1頭採集 大脇 淳

2001年7月8日 石川県金沢市横谷 1頭目撃 大脇 淳

2003年9月9日 石川県金沢市俵町 1頭目撃 大脇 淳

2005年8月11日 石川県金沢市俵町 1頭目撃 大脇 淳

2005年8月25日 石川県金沢市俵町 1頭目撃 大脇 淳

2005年9月26日 石川県金沢市俵町 1頭目撃 大脇 淳

ヒョウモン類をネットに入れると、大半はミドリヒョウモンかオオウラギンスジであり、本種はかなり少ない。能登では、2000年以降内浦町、柳田村（どちらも現能登町）から報告されている（日吉ら 2002）。

## ■オオミスジ

- 2000年7月6日 石川県鳥越村（現白山市）河原山 1♀採集 吉村久貴（吉村 2005）  
 2003年6月21日 石川県鳥越村（現白山市）河原山 1♀採集 吉村久貴（吉村 2005）

本種の2000年以降の記録は、吉村氏による上記のもののみである。筆者は、1994年に記録のある金沢市俵町には、調査地として1999年から7年間通っているが、本種を見たことがない。

上記のチョウは、石川県でも減少している可能性は十分にある。特に、オオミスジの観察例は近年極めて少ない。これらのチョウの多くが石川県で近年の記録がないのは、単に興味を引かないだけなのか、本当に衰退しているからなのか、実際のところはよく分からないが、筆者の心配が杞憂であることを祈っている。種によっては、10年で著しく衰退することもあるので、現状把握のため、これらのチョウを見たら、ぜひ記録・報告して頂きたい。

なお、本稿を書く上で貴重なアドバイスと文献をご教示いただいた松井正人氏に深く感謝申し上げる。

## 《 参考文献 》

- 日吉宏朗・日吉芳朗・日吉南賀子（2002）奥能登の内浦町、柳田村、門前町での蝶の追加記録種. 翔(159):1-3.  
 日吉芳朗（2004）石川県宝立山の蝶リスト. 翔(166):6.  
 日吉芳朗・日吉南賀子（2002）輪島市におけるミヤマチャバネセセリとオオチャバネセセリの最近の動向. 翔(156):3.  
 日吉芳朗・日吉南賀子（2004a）輪島市と鳳至郡柳田村のスジボソヤマキチョウ. 翔(166):7-8.  
 日吉芳朗・日吉南賀子（2004b）石川県輪島市および鳳至郡柳田村での2003年の蝶の記録から. 翔(169):3-4.  
 井上大成（2005）日本のチョウ類の衰亡理由. 昆虫(NS), 8(2):43-64. 日本昆虫学会.  
 石川県自然保護課（2000）石川県の絶滅のおそれのある野生生物〈動物編〉. 155pp.  
 石畑正夫（2004a）石川県輪島市でスジボソヤマキチョウを採集. 翔(166):8.  
 石畑正夫（2004b）金沢市医王山のヒメキマダラヒカゲ. 翔(167):6.  
 松井正人（2002）白峰村明谷川でキバネセセリを観察. 翔(159):5.  
 松井正人（2003）輪島市と柳田村でスジボソヤマキチョウを観察. 翔(160):9.  
 三上秀彦（2002）柳田村でスジボソヤマキチョウを目撃. 翔(156):1.  
 大脇 淳（2002）石川県尾口村新岩間温泉周辺で採集目撃した蝶類. 翔(158):2.  
 大脇 淳（2003）2003年石川県小松市のホシチャバネセセリ. 翔(165):8.  
 吉村久貴（2005）石川県産蝶類14種の記録. とっくりばち（73）:18-19.

《おおわき あつし 〒920-0942 金沢市小立野1-23-20》

## 石川県のトゲナナフシについての追加産地と追加知見

松井 正人

翔177号で石川県のトゲナナフシに付いて報告した（松井、2005）が、その後に見付かった観察地と、若干の知見について報告する。

### ■追加記録

松井（2005）では、トゲナナフシの観察地を13箇所報告したが、その後、以下の場所でも観察した。いずれも日中に観察したが、小松市馬場（標高100m）以外は、夜になると街灯に照らされている場所である。

2005年11月20日	小松市おびし（標高20m）	1♀目撃	松井正人
2005年11月20日	小松市木場（標高20m）	2♀目撃	松井正人
2005年11月20日	小松市馬場（標高100m）	1♀目撃	松井正人
2005年11月23日	小松市馬場（標高40m）	6♀目撃	松井正人
2005年11月23日	小松市那谷（標高50m）	1♀目撃	松井正人
2005年11月27日	加賀市山中温泉四十九院（標高70m）	1♀目撃	松井正人



写真1.

小松市馬場（標高40m）の観察地

街灯の下に水路は無く、トゲナナフシは、街灯の立っている左右1mの草付きの斜面に頭を上にして静止していた。



写真2.

加賀市山中温泉四十九院の観察地

街灯の下に水路は無く、トゲナナフシは、街灯の立っている真後ろの垂直な石壁に、横向きよりやや頭を上にした状態で静止していた。

## ■観察地の標高

前回と今回の報告で、現在分かっている石川県内全ての観察地を報告したことになり、これら観察地の標高は、20m～150mだった。

表1. トゲナナフシ観察地の標高

観察地	標高	観察地	標高
小松市上荒屋	20m	金沢市卯辰山東御影	90m
小松市おびし	20m	金沢市卯辰(宇多須奥宮)	90m
小松市木場	20m	金沢市卯辰(工芸工房)	100m
金沢市卯辰(住宅地)	40m	小松市馬場	100m
小松市馬場(宅地付近)	40m	金沢市鈴見(鈴見緑地)	120m
金沢市鈴見台	50m	金沢市鈴見(乙女の像)	120m
小松市那谷	50m	金沢市末広(献体墓地口)	130m
金沢市東長江(トンネル口)	60m	金沢市末広(金沢YH)	130m
小松市瀬領粟津峠	60m	能美市大口坪野峠	150m
加賀市山中温泉四十九院	70m		

## ■観察の時期

金沢市卯辰山界隈の観察地へは、2005年12月13日の大雪に見舞われるまで、同年の10月中旬から、日中や夜間に何度か調査を行ったところ、最も観察数が多かったのは10月下旬だった。しかし、最も標高の低い卯辰(住宅地)の観察ピークは11月中旬となり、全体の観察ピークより遅くなった。これは、寒くなることで、より暖かな場所へとトゲナナフシが山を降りた可能性をうかがわせている。

表2には、その期間に観察した1調査当たりの平均観察数を示した。

表2. トゲナナフシの旬別平均観察数

観察地	標高	調査範囲	10月中	10月下	11月上	11月中	12月上
卯辰(住宅地)	40m	80㎡	—	3♀	3♀	11♀	4♀
卯辰(宇多須奥宮)	90m	5㎡	4♀	4♀	8♀	1♀	3♀
卯辰(工芸工房)	100m	15㎡	5♀	5♀	4♀	1♀	1♀
鈴見(鈴見緑地)	120m	5㎡	8♀	17♀	—	1♀	0♀
末広(献体墓地口)	130m	8㎡	13♀	33♀	—	8♀	3♀

(—)は未調査

## 《 参考文献 》

松井正人(2005) 石川県に於けるトゲナナフシの分布調査. 翔(177):3-6.

《まつい まさと 〒920-3121 金沢市大場町東871-15》

## 会員の動き・しゃばの動き

### ■サマータイムならぬアサギタイム

北上するアサギマダラの海岸飛来が始まった。海岸は日中暑くなるため、調査は早朝がベスト。珠洲で6時に調査を始めるには、金沢は4時発。これから約1ヶ月、松井氏は、眠い眠いアサギタイムで活動する。

### ■アサギマダラが大量飛来

5月31日、珠洲の外浦海岸は、どこもかしこもアサギマダラが舞い、1日で187頭が観察された。これまでの5月6月は、ほとんどが数頭の観察で三桁はあり得ない数字だった。

### ■輪島市はアサギマダラの北上ルートか

輪島でアサギマダラの調査をしている日吉氏、袖ヶ浜で「ヒメ」と書かれたアサギ3頭を次々と捕獲。「ヒメ」は、大分県姫島のマークで、ビックリするやらうれしいやら。今日もスキップしながら浜に通っている。

### ■新芽が鮮やかなマテバシイ

昨年、西部緑地や千里浜で大発生したムラサキツバメ、今年になって見つからない。まだ極めて少ないのか、それとも越冬できなかつたのか。数が増え出すこれからに期待したい。

### ■自然のロマンにふれてみませんか

佐藤英二氏のアサギ本第3段が、山と溪谷社から発行された。

「アサギマダラ海を渡る蝶の謎」1600円  
蝶が海を越えて二千キロも飛ぶ、その謎に満ちた生態を紹介し、子供も参加できるマーキング調査を、わかりやすく解説している。

### ■海岸アサギマダラの観察結果

今年は、去年の5倍となる1228頭が観察された。能美市と輪島市では定点観察が行われ、能美では6月6日、輪島では6月10日が、飛来のピークとなった。

### ■医王山でヒメシジミの観察会

7月に入り、昨年見つけたヒメシジミの子孫と思われる個体が、同じ場所でポツポツ観察されだし、観察会も開かれた。これも、第1発見者が場所をしてくれたおかげです。細沼氏に感謝したい。

### ■今年も医王山でヒサマツミドリ

フジ狙いで賑わう医王山北方稜線。採集者が増えれば虫を探す眼も増えて、フジを探すネットにヒサマツが入った。今年は2♂かな。

### ■国立・国定公園特別地域内の捕獲規制

7月7日、環境省から規制される動物が発表された。昆虫は、オガサワラアオイトトンボ、オガサワラトンボ、ミヤジマトンボ、ウスイロヒョウモンモドキ、台湾ツバメシジミ(本土亜種)、ミヤマシロチョウの6種で、地域指定されている。規制は7月20日から。

### ■7月8日医王山北方稜線は大にぎわい

各種のゼフが手軽に観察採集できると、地元組や遠来組が早朝から入れ替わり立ち替わり訪れ、土曜はやはり大賑わい。地元組は、松井、嵯峨井、浅野、細沼、松田、生田ってところか。

### ■医王山のヒサマツはブナ食いか？

標高820mのブナ林で採れるヒサマツミドリシジミ、♂も♀も羽化後間もないと思

われる新鮮な個体ばかり。山麓からの吹き上げかとばかり思っていたが、現地でブナを食べているのかも知れない。

写真イラスト作品大募集

### ■「翔」の表紙を飾る作品募集

あなたの作品で、翔の表紙を飾ってみませんか。希望があれば、作品を小幡氏まで送ってほしい。氏のアドレスは、事務局まで。

### ■ 例会の記録 ■

6月8日(木) 浅地メッキ2階にて、午後8時から開催。

今回は、井村会長が採りたてのヒメビロウドカミキリの生虫を持参し、カミキリを含む甲虫の美しさ格調の高さを自慢しながら紹介。

その他の話題は、ムラサキツバメは見つからない、内灘でマークアサギを採集、飼育の極意は少数精鋭、糞虫も嫌うカモシカの糞、茶系のヤコンは珍しい、ゼフ竿のお値段、ここは奇人変人の集まりか、妻にも言えないここでの話、などなど。

参加は、井村、浅野、長田、浅地、細沼の5人。

### ■ 例会の記録 ■

7月6日(木) 浅地メッキ2階にて、午後8時から開催。

今回は、北上移動するアサギマダラの観察結果を松井氏が紹介。今年は、5月20日から6月24日にかけて、北上移動していると思われる1228頭が海岸で観察され、大分県姫島で放蝶された個体が輪島市袖ヶ浜で3頭も再捕獲された。能登半島内での移動再捕獲も11頭観察された。

その他の話題は、馬場島のギフチョウ、オレンジ色に集まるヒョウモンチョウ、赤くないベニモンカラス、クワガタの里親飼育、標本ダンスの置き場所が無い、スジアカクマゼミの分布は広がっているか、1日でカミキリ80種の釈迦林道、などなど。

参加は、井村、竹谷、勝海、浅地、長田、生田(耕)、松井、浅野、細沼の9人。

### ■ ■ 表紙デザイン：小幡英典 ■ ■

## 目 次

大脇 淳：金沢市犀川上流でヒメキマダラセセリを観察	1
松井正人：能登半島産から特異なクロアゲハが羽化	2
松井正人：アサギマダラのヘアーペンシルと匂い付け行動	3
大脇 淳：近年減少傾向にあると言われる蝶8種の石川県での現状について	4
松井正人：石川県のトゲナナフシについての追加産地と追加知見	7
編集部：会員の動き・しゃばの動き	9

## 翔 181号

Tobu 2006年 8月10日発行  
百万石蝶談会  
金沢市大場町東871-15 松井方

<http://homepage3.nifty.com/100man/>

☎920-3121 ☎076-258-2727  
郵便振替 00750-8-562  
印刷 小西紙店印刷所



撮影/松井 正人



撮影/矢田 新平



撮影/松井 正人